

# しらべが丘の風

学校だより10月号 令和4年9月30日  
大津市立雄琴小学校 児童数315名  
心豊かでたくましい子どもの育成

おごとっ子の合い言葉 「あなたも わたしも 大切に」

## 人と人をつなぐ 手紙の力

### ～敬老の日のお手紙と「学び旅」の感想ノート～

2学期が始まってからもしばらく暑い日が続きました。登校してくる子どもたちは汗を一杯かいて坂道をのぼってきていました。先週の台風が過ぎた後は随分と涼しくなり、少し過ごしやすく感じます。子どもたちの服装もベストや一枚上着を羽織って登校してくる姿が目立ちました。季節の変わり目は気温の変化も激しいものです。子どもたちの体調管理には引き続きご配慮をお願いします。

毎年9月には学区の敬老会行事が開催されます。例年ですと、敬老会行事に子どもたちが音楽や踊りなどの出し物を披露するところですが、今年度もコロナ対策のため、実施は見送られました。その代わりに、子どもたちがお手紙を書き、敬老の日のお弁当配布に添える取組がありました。1、2年生は1枚ずつ、3年生以上は2枚以上書きました。手紙の内容は敬老のお祝いの内容だけでなく、休み時間の過ごし方や子どもたちが今頑張っていることなども書かれていました。配布してくださった地域の方に尋ねたところ、「お弁当だけでなく、子どもたちからのメッセージまで添えられていて感激しました。」「今年のメッセージは文字が大きくとても読みやすかったです。」などとうれしい反響がありました。また、6年生は「おごと温泉学び旅」での学習のまとめとして、雄琴温泉を紹介するパンフレットを作り、夏休み中、学び旅にも協力してくださった琵琶湖グランドホテルのロビーに展示してもらいました。子どもたちの作品と一緒に置いていた感想ノートを夏休みの終わりに回収に行くと、宿泊客の方からのたくさんのメッセージが書かれていました。

今の社会は、伝達手段の多くがメール等のSNSを通じてのやり取りです。今回子どもたちが書いたお手紙や受け取った感想ノートといった自筆の文章に触れる機会が少なくなってきています。一方で今回のようなエピソードは、自筆の言葉の力が加わって人の気持ちを動かしたのかなと感じました。これからも、書くだけでなく、言葉で相手に伝える活動を学校でも意識的に取り入れていきたいです。

パンフレットはどれも工夫されていて雄琴温泉のよさがわかりました。九州から滋賀県に来たのは2回目。初めての雄琴温泉最高！これを読んでさらに最高の気分になりました。

みんなのパンフレットに「おごとん」のキャラクターが書いてあり、その存在に気づきました。何かグッズを買って帰ります。

温泉の魅力がたっぷり紹介されていますね。知らないことが書かれていてまた来たくまりました。さらに雄琴温泉が発展しますように…

皆さんが地元雄琴を愛して大切にしていることが伝わってきました。とても素敵な取り組みですね。楽しい旅行でした。

一人一人個性の出ているパンフレットが出来上がってすばらしいと思いました。初めて雄琴温泉に来ましたが、地図やおすすめ、キャラクターのことなど詳しく書かれていますね。

温泉紹介パンフレットの感想ノートより

# 10月 行事予定

12日、26日(水)は、学区民会議あいさつ運動です。

日	曜	行 事 予 定	日	曜	行 事 予 定
3	月	委員会	18	火	運動会予備日
5	水	教育相談日 AM	20	木	教育相談日 PM
6	木	代表委員会	21	金	職員研修のため6年生以外 12:55 頃下校 6年 14:20 頃下校
7	金	運動会前日準備 1~5年 12:55 頃下校 6年 14:40 時頃下校			
8	土	運動会 11:45 頃下校	24	月	クラブ
10	月	<スポーツの日>	25	火	芸術鑑賞会→中止
12	水	5年フローティングスクール	26	水	2年校外学習(ガリバー村)
13	木	3年校外学習(消防署、琵琶湖博物館)	27	木	1年校外学習(琵琶湖こどもの国)
14	金	運動会振替休日	28	金	上靴持ち帰り日
17	月	全校5時間授業	31	月	クラブ

## PTA 図書ボランティアの読み聞かせ

～皆様も参加しませんか？～

9月に久しぶりに図書室で読み聞かせがありました。昼休みの短い時間ですが、お話の世界に子どもたちが浸れる、心地よい時間を提供してくださいました。ボランティアのお母さんも、気楽にご自分が楽しみながら活動されています。皆様も一緒にやってみませんか？お問い合わせは学校までご連絡ください。



## 雄琴の歴史話 「苗鹿」の地名の由来

「苗鹿」の文字の由来と読み方の由来が別々にあるようです。苗鹿の文字については、天太玉命（あめのふとだまのみこと）が老後にこの地に住んで農作業をしていたとき、体の自由がきかなくなって困っていると、どこからともなく鹿が出てきて稲（苗）を背中にのせてお手伝いをしたそうです。この話から「苗鹿（苗が鹿の背中にのっている）」という地名になったそうです。また、「のうか」という発音は、苗鹿にある那波加（なばか）神社の発音がなまってできたと伝えられています。天太玉命が祭られている那波加神社の境内にも、このことが書かれた案内表示があります。



那波加神社（苗鹿1丁目）